

6 日本経済の動向 Developments in the Japanese Economy

(1) 景気の変化 Change of the Economic Condition

	景気 Business cycle	主な出来事 Incident	実質経済 成長率 (%) Real GDP Growth	消費者 物価指数 (前年比%) Consumer Price Index (Change from previous year)	公定歩合 (年末値) (年率%) Central bank discount rate (end of year)	
1973	昭和 48	46年12月～48年11月 (列島改造ブーム)	1973.10. 第1次石油危機	8.8	11.7	9.00
74	49	50年3月～52年1月 (好況)	1975.11. 第1回サミット(ランブイエ)	▲0.1	23.2	9.00
75	50			4.4	11.7	6.50
76	51			2.9	9.4	6.50
77	52			4.0	8.1	4.25
78	53			5.3	4.2	3.50
79	54	52年10月～55年2月 (好況)	1979.11. 第2次石油危機	6.5	3.7	6.25
1980	55			1.1	7.7	7.25
81	56	58年2月～60年6月 (ハイテク景気)	1985.9. G5 プラザ合意	2.9	4.9	5.50
82	57			2.8	2.8	5.50
83	58			1.6	1.9	5.00
84	59			3.1	2.3	5.00
85	60			5.1	2.0	5.00
86	61			3.0	0.6	3.00
87	62			3.8	0.1	2.50
88	63			61年11月～平3年2月 (バブル景気)	1990.8. イラクのクウェート侵攻	6.8
89	平成元	5.3	2.3			4.25
1990	2	1991.1. 湾岸戦争勃発	5.2			3.1
91	3	5年10月～9年5月 (カンフル景気)	1993.12. ガットウルグアイ・ラウンド交渉妥結	3.4	3.3	4.50
92	4			1.0	1.6	3.25
93	5			0.2	1.3	1.75
94	6			1.1	0.7	1.75
95	7			2.7	▲0.1	0.50
96	8	1997.7. アジア通貨・金融危機発生	1997.7. アジア通貨・金融危機発生	3.1	0.1	0.50
97	9			1.1	1.8	0.50
98	10			▲1.1	0.6	0.50
99	11	11年1月～12年11月 (IT景気)	2001.9. 米国同時多発テロ事件発生	▲0.3	▲0.3	0.50
2000	12			2.8	▲0.7	0.50
01	13	14年1月～19年10月 (いざなぎ景気)	2003.3. イラク戦争	▲0.7	▲0.7	0.10
02	14			0.4	▲0.9	0.10
03	15			0.1	▲0.9	0.10
04	16			1.5	▲0.3	0.10
05	17			2.2	0.0	0.10
06	18			1.7	▲0.3	0.10
07	19			1.4	0.3	0.40
08	20	2006.7. 日銀、ゼロ金利解除	1.4	0.3	0.40	
09	21	2007.8. 米国サブプライムローン危機勃発	1.7	0.0	0.75	
2010	22	2008.9. リーマン・ショック	▲1.1	1.4	0.30	
11	23	2009.10. 欧州債務危機勃発	▲5.4	▲1.4	0.30	
12	24	2011.3. 東日本大震災	2011.3. 東日本大震災	▲0.7	▲0.7	0.30
13	25			4.2	▲0.3	0.30
14	26	2014.3. ロシア、ウクライナ南部クリミアを編入	2014.3. ロシア、ウクライナ南部クリミアを編入	▲0.1	▲0.3	0.30
15	27			1.5	0.0	0.30
16	28			2.0	0.4	0.30
		2016.6. 英国、国民投票でEU離脱を決定	2016.6. 英国、国民投票でEU離脱を決定	0.3	2.7	0.30
				1.2	0.8	0.30
				1.0	▲0.1	0.30

Notes : 1. 実質経済成長率は、80年までは68SNA・90暦年基準、81年以降は93SNA・95暦年基準、1995年以降は内閣府2017年2月13日公表の連鎖方式による。

Real GDP growth was calculated by the SNA68 on the 1990 calendar-year basis until 1980; by the SNA93 on the 1995 calendar-year basis in 1981 and thereafter; and by the chain method released on 13th Feb. 2017 by Cabinet Office in 1995 and thereafter.

2. 消費者物価指数は、総務省の各暦年基準に基づく。

Consumer Price Index was compiled from the CPI data on a calendar year basis published by Ministry of Internal Affairs and Communications (MOIAC).

Source : 内閣府資料(旧経済企画庁『国民経済計算年報』、旧総務庁『消費者物価指数年報』含む)、日本銀行『物価指数月報』『経済統計年報』などより作成。

Compiled from data available from Cabinet Office (including the ex-Economic Planning Agency's "Annual Report on National Accounts" and the ex-Management and Coordination Agency's "Annual Report on the Consumer Price Index"), BOJ's "Price Indexes Monthly" and "Economic Statistics Annual", etc.

(2) 基調判断の変化 Assessment of the Current State of the Economy

報告月	主な 該当月	基調判断	輸出	輸入
2015年 1月	2014年 11月	景気は、個人消費などに弱さがみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
2月	12月	//	このところ持ち直しの動きがみられる。	//
3月	2015年 1月	景気は、企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いている。	//	//
4月	2月	//	//	//
5月	3月	景気は、緩やかな回復基調が続いている。	おおむね横ばいとなっている。	//
6月	4月	//	//	//
7月	5月	//	//	//
8月	6月	景気は、このところ改善テンポにばらつきもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	このところ弱含んでいる。	このところ弱含んでいる。
9月	7月	景気は、このところ一部に鈍い動きもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	//	//
10月	8月	景気は、このところ一部に弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	//	//
11月	9月	//	弱含んでいる。	おおむね横ばいとなっている。
12月	10月	//	//	//
2016年 1月	11月	//	//	//
2月	12月	//	//	//
3月	2016年 1月	景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	おおむね横ばいとなっている。	//
4月	2月	//	//	//
5月	3月	//	//	//
6月	4月	//	//	//
7月	5月	//	//	//
8月	6月	//	//	//
9月	7月	//	//	//
10月	8月	//	//	//
11月	9月	//	//	//
12月	10月	景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。	持ち直しの動きがみられる。	//

Source: 内閣府『月例経済報告』より作成。
Compiled from Cabinet Office's Monthly Economic Report.